

日本水秀
西城人教考
水城人教考
併册

曾
775
191



門首4
卷 775
191

崎港求林齋西川如見先生著

日本水土考

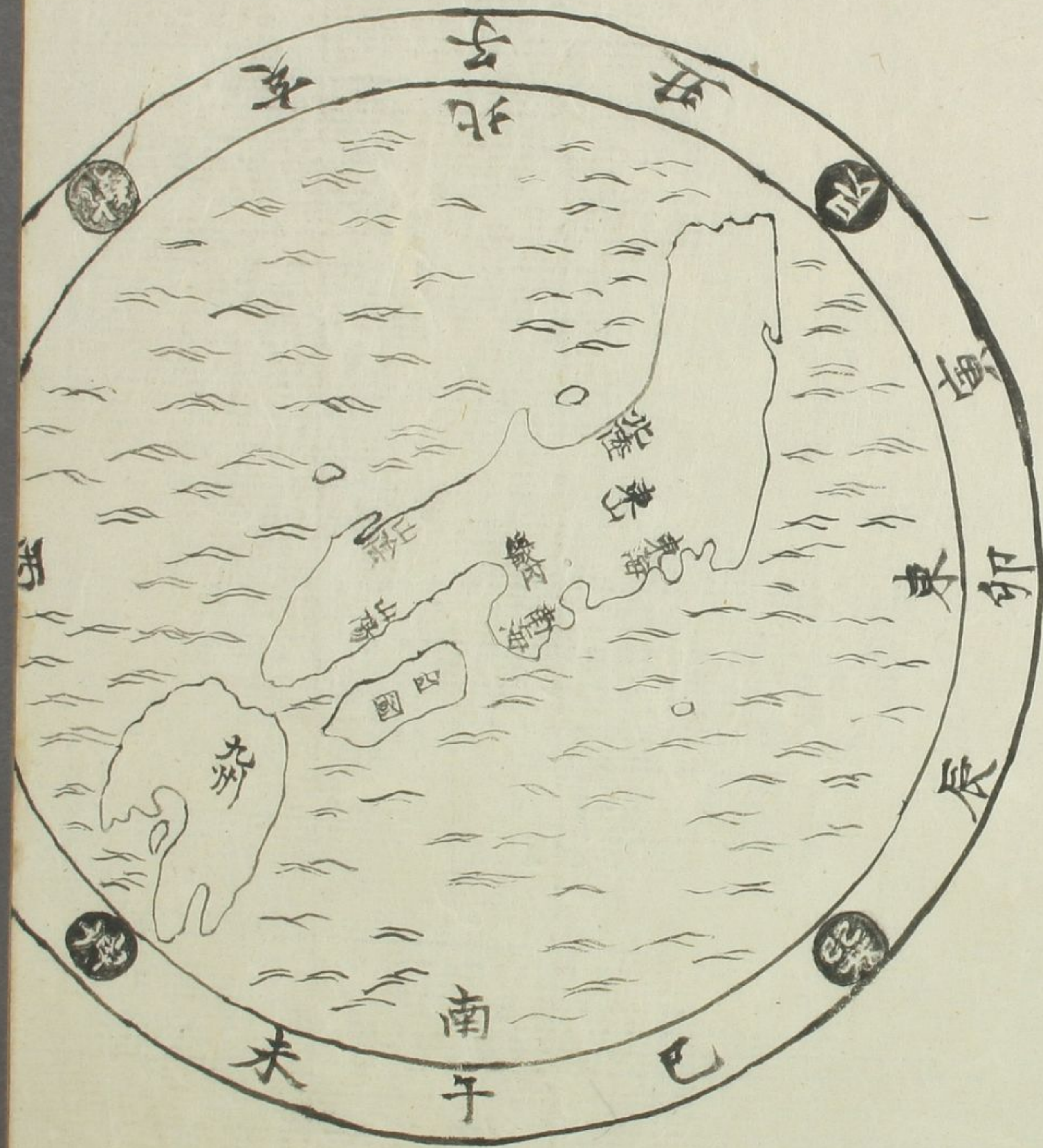
平安書舖茨城柳枝軒壽櫻
肥後熊本府下中村直道藏本



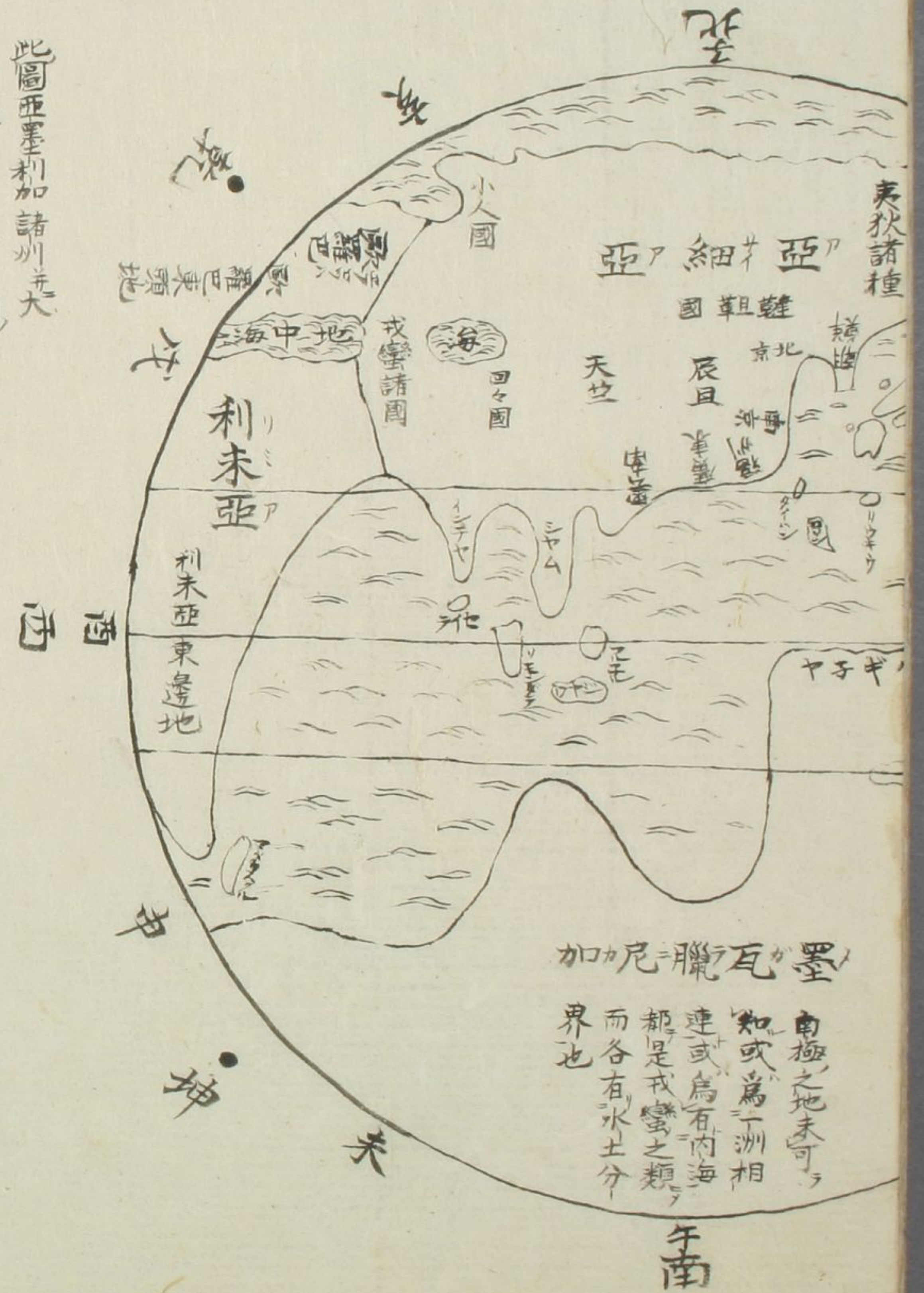
亞細亞大洲圖



日本方角之圖



此圖亞墨利加諸州并大
小島歐羅巴利未亞二洲
之諸國及島嶼共有各五



加尼臘瓦墨
南極之地未可
知或為一洲相
連或為石內海
都是我蠻之類
而各有水土分
界也

日本水土考序

渾地萬國圖者異邦之所著而
地理之學不可不憑之以察其
水土也蓋萬國各無不以自國
爲上國而用自國之說斷自國
之美者未脫有私稱之偏故今
從異邦之所圖以察此國之美
則非私稱之儀而實知此國爲



上國之理矣於茲書日本水土
考以示同學苟雖以此儀談於
異邦人豈得拒之哉
元祿庚辰秋七月
肥陽崎江散人求林齋著

日本水土考

日本徑度

東西凡十二度南北三度或二度凡四度

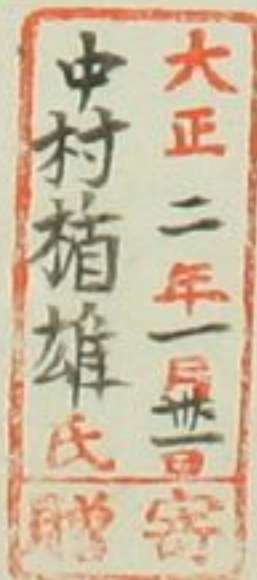
北極出地

畿內三十五度或三十五度半

江戸三十五度或三十六度

東奥凡從三十七八度至四十度津輕

北京同其度



九州從三十四度豐前小倉至三十二度

或三十一度薩摩南邊

四國三十四度或三十三度半

長崎三十三度弱

閱渾地圖大瀛海之裏陸土自相斷成三

大界第一界在中帶赤道之北而徑度

極大者優分畫以作三洲曰亞細亞曰

歐羅巴曰利未亞第二界在利未亞之

西而橫於赤道之南北者曰亞墨利加

第三界在於赤道之南而廣相連者曰

墨尾臘尼總是為五大洲也萬國各在

於五大洲內亦許多島嶼各屬其界洲

俗所謂世界者是也蓋三大界中以第

一界為勝第二第三者次之故論地理

者必以第一界為水土之正也於其第一界三大洲中以亞細亞大洲復為勝是第一中之第一也亞細亞洲之中央為辰旦辰旦之西為天竺其西邊在戎蠻之諸種辰旦之東頭在日本國日本之東濱海遠濶世界第一之處而地勢相絕故圖上雖以亞墨利加洲置於東地系還接於西方而其水土陰惡偏氣國也按地體渾圓之理則當以亞墨利加屬于西極地體渾圓本雖無東西之

定處以一物一乾坤之義則莫不具箇箇一太極以此理可定方位矣

定日本所在之方角從第一界之南赤道上而窮之則在艮位從亞細亞中央之地而定之則在正東卯位也日本中央之處北辰出地三十五度去赤道亦三十五度自其東極至西極其徑度相互十二而其形勢東西長南北狹少反曲而有游龍遶首之貌是自然風水也此國在萬國之東頭而朝陽始照之地陽

氣發生之最初震雷奮起之元土也主
于卯故木德也寅卯之震木生巳午之
離火故火德日神主於此國者自然相
應矣又號日本者其義最相當也往古
已有日高見之名者由日始照之義乎
在艮位者艮陰之終陽之始也子丑水土
也寅卯其木也木生於水土寅木之陽
生於極陰水土者也木始生者其質樸
若故以寅卯爲若木或號扶桑者皆相
當東方陽木之義又號此國曰豐葦原

瑞穗國豐富饒之義美譽之詞也葦生
於水土而易繁茂生生無息之物瑞之
訓水也言草木生於水之謂亦穗之和
語火也穗與火同訓草木生種子者陽
氣發生之基陰中之陽也是以譬此國
生殖茂榮之儀亦古人祝名也都如瑞
籬瑞殿皆以瑞稱之者水除火災之祝
事也

此國艮震極端之地而陽氣發生之始也
陽物初生者其質樸若其氣強壯也故

日本人多仁愛之心者，篤稟震木發生氣也。專勇武之意者，因得艮山強立之精也。亦其性好清麗潔白之物，而惡陰濁穢氣之類。厚吉禮，薄凶禮。歲旦婚姻等賀儀，雖庶人其禮甚嚴重，異於他邦者。歲旦陽氣發見之始，婚姻人倫生生之始也。蓋神者伸之氣，而非屈之氣。故此民恆好怡悅之色，而忌哀愁之貌。是以詳於祝其始之儀，而疎於哀其終之事。是之國自然民情也。

以此國號姬氏國者，日本以間有立女帝，故異邦稱言之。因以為秦伯之裔者，非也。惟日本俗以姬為女子之通稱，以彥為男子之通名。彥之和語曰子也。姬之和語曰女也。此國之人皆為日神之裔。之謂也。或以日神為女體之儀，亦有所以乎。間立女帝之事，亦從水土自然之理乎。主艮位者，具少陽之數也。素問所謂女人以少陽數成，貌之盛衰，女人以七七數，致盛衰之變。故艮地所主女人

盛衰之處也日本國女人美容端麗者
或孝順貞烈者古今不可枚舉是亦相
當于艮位少陽之義乎

此國爲神國之義水土自然之理乎史記
云東北神明之舍云東北艮位陰陽
終始之地而陽神來陰鬼往之地於節
氣則爲除夜之處冬陰之殺氣退而春
陽之生氣來也故此夜戶戶迎陽神之
福追陰鬼之凶者是相適日本水土之
俗也皆是神國之儀而敬信神明有勝

於異邦矣或亞墨利加大洲之艮方有
號鬼島者傳聞此島鬼類衆會地而惱
海舶之往來常妖怪事甚多故名鬼島
然則艮地者實鬼神衆會處也雖然鬼
島者濁陰凶惡之水土故鬼魅集于此
日本者清陽中正之水土故神明會于
此最不可疑焉

此國四時中正之國也雖萬國廣大四時
中正者亦不多大海裡多有島洲之中
無四時如日本者總在中帶南北四十

七度之間者皆偏熱國也或去中帶凡六十度已上之地者皆偏寒國也唯去中帶自二十七八度至四十二三度之間爲之四時正氣國也日本中央之京畿去中帶三十五度其東邊三十八九度其西邊三十一二度是四時中正之中道而陰陽中和之水土也況其京畿在其中央而相中於正氣之中線者亦希也是故日本京都人物大美者也古說以日本舉洲形勢爲蜻蛉也今按之

地圖則如游龍之勢然艮山爲頭坎水爲肩乾天爲背兌澤爲腰坤地爲尾離火爲腹巽風爲胸震雷爲喉是自然形勢也蓋謂伊勢太神宮負乾天面巽風巽風木也離火之母而火德出生之方也故面巽位乎亦巽辰巳也辰木之成就巳火之初生也辰和語立也巳和語見也其相合神明立向之義也非神明而已日本之人畜萬物都有負乾抱巽之理也背脊堅固以負至健之天氣心

胸虛無以藏巽風之呼吸是自然之形
狀也

日本東西徑度相互地之十二度南北有
東西四分之二而及地度之三也此之
天竺辰旦則雖謂小島然萬國之間堺
內不如日本者最多況於偏熱偏寒類
耶傳聞大海中島州大者八其中以日
本國為第一大島何謂小島哉或有以
為粟散國者甚不然夫大地雖廣大有
其里數所極而著明也今之號世界者

其周圍三百六十度而無過於萬五千
里即以日本東西之徑度較計之則莫
餘於三十二倍然則日本亦大國也豈
得號粟散國哉夫國也者不可以廣大
為貴以四時之正偏人物之美惡而可
定其貴賤是故國土極大者其人情風
俗多岐而難一統故雖辰旦聖國也動
有皇統變亂而難久治雖周之世系經
八百餘年其間治平純靜者不足三百
年況其以下歷世暨三百年者殆希也

日本之限度不廣亦非狹其人事風俗民情相齊混一而易治是故日本皇統自開闢至當今而無變者萬國中惟日本而已是亦非水土之神妙耶

日本國要害勝於萬國者也蓋小國連于大國者必有為大國被屈或終為大國所併焉日本之地雖近於大國隔灘海而如相遠故無被屈於大國之患況其所併乎辰且之大國被若北狄之強大者其地相連故也況小國耶然則日本

風水要害之好萬國最上也號浦安國者要害堅固之儀也號細矛千足國者勇武全備之謂也住乎浦安之大城備乎千矛之武德而永久與天地無窮矣此民者神明之孫裔而此道者神明之遺訓也愛清淨潔白樂質素朴實者則仁勇之道而智自足也是此國自然神德也豈不貴哉

平安六角通御幸町西入町
享保五年孟春穀且

柳枝軒茨城多左衛門藏版

文政三庚辰仲冬肥熊府下中村直道寫

兩域人數考

西川如見誌

人數測法

天法一重之成二地法二重之成四人法
三重之成六天者生於一而成二地者
生於二而成四人者生於三而成六故
天一地二相合則爲人三天地四相
合則爲人六六三相合則成九此九六
者三才陰陽之極數也人生者憑於地
而生成矣是以天二人六相乘則成十

二、又以地四人六，相乘成二十四，此人類生生之元數自然妙也。復用邵氏一元十二會之紀年配之，世運而推二邦之全度以計其口數者也。

日本全地

東西距十二度

一度以四百八十里者三

十六町一步以六尺五寸

南北距二度半

如里上且一百里如里上尺

右以方一度約作區畫則得三十區是

日本全地之度坪也

唐土全地

南北距廿二度

度里唐二百五十凡五千

五百里

日本凡八百五十餘里

東西距廿六度

如度上凡六千五百里日本凡

一千里強

右以方一度約作區畫則得五百七十

二是唐土全地之度坪也。今以坪區

之數較計日本唐土大於日本一

十九倍強也。俗或為八倍者，總圍遠海

島洲以為限界而較測之故也。最大略

之座談也

術法

元法二十四

重六成二十成二十四重地法十日唐土三

五百七十區二其餘天法三百六十相乘得十

得三九千六百六十六者紀法也

三重三成六六相乘成三十會數一萬

八百年九十二會十萬

置元法象地法復象天法為之寅會人

數從次第乘生法則各其會人數也其

記如左

日本

寅會二十五萬九千二百人一會一萬八

千四百二年天開子地成丑人百年半會五

卯會七十七萬七千六百人此數自卯會

辰會二百三十三萬二千八百人此數自辰會

至巳會半

巳會六百九十九萬八千四百人此數自巳會

至午會半

午會二千〇九十九萬五千二百人此數自午會

未會半至

未會六千二百九十八萬五千六百人數此數

自未會半至申會半

申會一萬八千八百九十五萬六千八百

人此數自申會半至酉會半

酉會五垓六京六百八十七萬零四百人

至此會中人數增益極至則復減少至

戌亥而人類盡矣右各一會人數於其

時世之常數也雖然其世運或不齊是

以造化或進或退而較之於常數或有

餘或不足此時運之變數者也天地之

間常變莫相離而能相持也常中有變
變中有常陰陽造化生生無窮是常數
之常理也

日本歷代

神武天皇即位辛酉歲自午會始一千五

百餘年是午會五運也一運者三百六

十年積三十運為一會

開化天皇五十四年當漢太初元年自午

會始二千〇六十餘年入午會之六運

自推古天皇共在午會八運之中自午會始凡二

千八九 此時人數考古記推古帝時凡
百年 四百九十九萬餘人而未足於五百万
人云云

自此至聖武帝時相去不及百五十年而
人數八百餘万人云云較推古之人數
增益甚多但推古時世質而不為悉計
四夷之數脫漏甚多較此會數不足者
三百餘萬至聖武時使僧行基計諸國
之人民殆倍前數其計與此會數最相
近矣

當今自午會始當十一運歲數三千九百
餘年以此會數推之則得時數近二千
萬也俗計謂二千數百万者亦不甚疎
雖然猶有餘於常數者蓋當世久治安
也且氣運生增盛之時而人數繁殖多
者也將來復從世運而亦有人數退減
之時乎是一會中之小變而常數中之
變數也

次唐土術法同日本但其區數不同
而已餘悉如前

元法四二十地法十五二百七天法三百六十生法三

會數一萬八

寅會四百九十四萬二千八十人自此會至卯

半會

卯會一千四百八十二萬六千二百人自此

會半至辰會半

辰會四千四百四十七萬八千七百八十八人自此

會半至巳會半

巳會一垓三千三百四十三萬六千四百八十八人自此

至此會半至午會半

午會四垓。三十萬。八千四百八十人

自此會半至未會半

未會一秭二垓。九十二萬五千四百八十八人

自此會半至申會半

申會三秭六垓。二百七十七萬六千三百八十八人

自此會半至酉會半

酉會一溝。八垓。八百卅二萬八千九百八十八人

至此會中人數增極則後減少至戌亥而人類盡矣

唐土歷代

黃帝以下至堯舜時皆巳會也

夏禹卽位後八年甲子歲是入午會初運
自寅會至于此歲四萬三千二百年
漢武帝太初元年自午會始六運而二十
一百十三年以下歷代至當今皆在午
會中當今午會之十一運而自寅會凡
四萬七千一百年也自漢太初至康熙
中凡一千八百也
當今人數六千二百餘萬云較之會數
其不足者四倍有餘蓋漢晉以下至唐
宋歷代之口數無過於六千萬至明清
之間超六千餘萬其增生較日本反寡

也或曰唐土自中古民宅每從口數而
取錢納官故虧口數以省錢所以民數
有多脫漏也然則此會數實應驗也
日本唐土當今人數因巳午兩會數而加
減之所定者也

日本凡一千四百万人如俗傳者二千七
百萬人也但未審
其實俗謂萬石之地則
居民萬人也最麤計也
唐土凡二垓六千六百万人如俗傳則六
千二百萬人
也其差四倍有
餘其辨如前
右共一區方一各四十六萬五千人

右考測者天下通計之數法也或有從其水土之氣而多寡者亦常數中之變數也隨水土隨時運而可察焉

附穀田測

人者由糧而立糧者生於平田滋潤之地蓋日本謂方一里者三十六町四方也以六尺五寸為一間以六十間為一町以卅六町為一里以町約之畫數一千二百九十六町也然國或多平田或少平田或有山谷燥土不毛原野或林藪川澤江湖海濱而其穀田者

在於其十分之一乎是以一里之內其平田町畝之數通計不過凡一百三十町故天下之米穀倍於人數則得安泰不當米穀於人數則為凶禍也蓋此測總天下之境土而通計之者也偏觀驗一郡國不可直論天下之通測矣

兩域人數考畢

平安六角通御幸町西入町

享保五年孟春穀旦

柳枝軒茨城多左衛門藏版

元本刊書備寺本氏偏之

文政三年仲冬

中村直道家藏

求林齋西川如見先生述

水土解辨

平安城書林柳枝軒刊行

熊本府

中村直道寫藏

水土解辨

氣運盛衰辨

或問天地の始今漸く半^ハと云ふ其氣運おとろ^ハ
羊本金石^ハ性弱くより人間は病氣無氣力の^ハ
多く氣運昏塞^ハなり故^ハく人間多^クなるゆ^ハに
と物多^クなり^ハる年^ハ其風^ハを^ハく^ハか^ハなり^ハる
時^ハ味^ハひ^ハま^ハる^ハと^ハ云^ハふ^ハは^ハ理^ハを^ハ極^ハむ^ハる^ハに^ハ似^ハた^ハり^ハ
曰^ハ流^ハ世^ハを^ハ一^ハの^ハ國^ハの^ハ人^ハも^ハの^ハて^ハ考^ハへ^ハば^ハ唐^ハ土^ハ日^ハ本^ハの^ハ
人^ハも^ハの^ハて^ハ考^ハへ^ハば^ハ唐^ハ土^ハ日^ハ本^ハの^ハ時^ハ運^ハく^ハの^ハお^ハ
と^ハ成^ハる^ハて^ハ云^ハ地^ハ万^ハ國^ハを^ハて^ハか^ハの^ハお^ハと^ハう^ハる^ハに^ハせ^ハ
い^ハふ^ハる^ハは^ハ唐^ハ土^ハの^ハ云^ハ地^ハ万^ハ國^ハを^ハ辨^ハして^ハい^ハふ^ハか^ハら^ハも^ハ
乃^ハど^ハう^ハも^ハ唐^ハ土^ハの^ハ人^ハ唐^ハ土^ハの^ハて^ハ云^ハ地^ハの^ハ中^ハ國^ハと^ハ
す^ハと^ハい^ハふ^ハも^ハ天^ハ竺^ハの^ハ人^ハ又^ハ天^ハ竺^ハと^ハも^ハつて^ハ世^ハ界^ハの^ハ中^ハ國^ハと

このまゝの國をわけて其國分りて中をさるる
平は長崎の津ありて一万國のりたははるる國
これにて異なりは多く其中に四季ごとく國と
りて上國と寒熱偏氣の國なりて下國と
あるも偏氣の下國より生じたる草木鳥獣の多くは
中國の及びる物多し伽羅沉香白檀丁子の類は香
類皆我蕃熱土の土産なりて中國の土産ありて
瑪瑙珊瑚琥珀の玉は我蕃の多くは我蕃の國
りたりとの之令銀多しは國とありては我蕃の國
中土の及びる物多し是は偏氣皆寒なる水土
生じては多しは我蕃の國なりては我蕃の國
とありては我蕃の國なりては我蕃の國なりては我蕃の國

物と巧むるにぞは却て中國の人も及びて一偏の
論をてははるる世界万國の中をめぐりては
りるのちよ人同しはるる國有又わき國あり
或は文字ある國を文字ある國あり人傷の作法は國
ありしあり人傷の作法は皆一なりは氣運やとる人
傷の道とびはるるもの又いふは人傷の作法はるる
時節はるるものなりはるるものなりはるるものなり
の教ひも多し是を以て我蕃の國は我蕃の國
開きしものなりは我蕃の國は我蕃の國は我蕃の國
にわきのごとく萬國の氣運はるるなりて一様なり
る道はるるなりは我蕃の國は我蕃の國は我蕃の國
ありしものなりは我蕃の國は我蕃の國は我蕃の國

の不同者といふ所の水土の氣厚さ其暑暖く水気の
氣厚さ其和しうもやき道理なりとるなり天
地の中を稱して其水土の氣厚さいすて又百年
以前より氣運せし今將今を單本とせしはよくを
わらうなりて氣の偏薄なる外國の氣運しよと棄
つて多土の產物多なる中より其氣盛
なる事もしやうき事なり感氣の始は後として
彼方の土地いまで用開くは國の土地いまで用開
くは彼方の土地いまで減却くは空の土地いまで減却
すはといふは理の首領さる也とせば我國二土の盛衰
とてとれて其故ともつて萬國世界の盛衰は是れなり
を得た事也

同一國の時運と云くゆらぐなる万国の論をいふる
事いふはせうとらして天地の氣運を併しとら
しといふはいふをて今附唐日本のとらして
一棄る物多し人間の壽命も古よ及びは才智氣
力也といふはいふをていふを也や賢の法いふは
人間をいふはいふのいふなりといふは氣運をいふ
は弱き及強なりとら
曰くこの民も百歳をいふは稀なりしとら
黃帝曰上古之人春秋皆度百歲而動作不善今時
之人半而動作皆善者時世異耶人將失之耶
今の内は黃帝の所也人將失之耶といふ意は

倭^ニとく本と記し理と明を事ある今の人かられば
俗の言と事あるの言と倍せりしや一の百工巧ん
なり事ある今人の百工の巧なるを却る古り倍せり氣
力甚くしとて之を人の中に入れり居る今
君の忠ある今人の百工の巧なるを却る古り倍せり氣
力甚くしとて之を人の中に入れり居る今
百人の巧なるは此で鳥獸とて今人の巧なるを
當の言記し物^スとて燕の春分より秋を序り鴻雁
の言記し性来^スとて鶴の雄の道四く誰^ニの言記し
やとて人の言記し物とて氣とて牛馬とて力とて
此の言記し今人の巧なるは此で鳥獸とて今人の巧なるを

いふの言記し今人の巧なるは此で鳥獸とて今人の巧なるを
よく元氣の油とて今人の巧なるは此で鳥獸とて今人の巧なるを
取補とて今人の巧なるは此で鳥獸とて今人の巧なるを
古の白取とて今人の巧なるは此で鳥獸とて今人の巧なるを
七^ツ聖業^ノ教^ノとて今人の巧なるは此で鳥獸とて今人の巧なるを
此の言記し今人の巧なるは此で鳥獸とて今人の巧なるを
宜^クとて今人の巧なるは此で鳥獸とて今人の巧なるを
精^クとて今人の巧なるは此で鳥獸とて今人の巧なるを
此の言記し今人の巧なるは此で鳥獸とて今人の巧なるを
とて今人の巧なるは此で鳥獸とて今人の巧なるを
此の言記し今人の巧なるは此で鳥獸とて今人の巧なるを
此の言記し今人の巧なるは此で鳥獸とて今人の巧なるを

物にて天地も一面の境^{ヤダ}をぐる事ありて何らなるが
りや

曰天地物也といふもあらず物も一は万物物として
則物之天地別大氣也天地別大氣也大氣はく大氣と
別して別して天地をく大氣別大氣を極とくも凡
大氣はく大氣の外別く大氣をく大氣はく大氣
あり大氣絶滅して大極ひよりいふくも又大氣
と生ぜんや大氣は動靜ありて至聖至剛也万物は大氣
より漸く減して大氣は帰して大氣は減して帰して
づきあらく本生もの然る初極とせ減して別よ
生滅をく天地の成る大氣の清は糞して三言
六千五度四合度の一と縮環してやまむ古今盛衰は

也大氣の濁と糞して静一万物を合て古今盛衰は
天地日月星總く大氣ありて始極をく理氣何ぞ先
後ありや

問平が始極なりと問ひの今は天地別始極なりと
ありんば天地の成るも天地の成るも天地の成るも
始極をくも又ば天地の成るも又ば次の天地の成るも
の果は始極なり足成りて天地の成るも天地の成るも
曰るがくも天地の成るも天地の成るも天地の成るも
又生こしてやまむる成るも天地の成るも天地の成るも
大氣の本終生滅なく其用も動靜ありて止るは万
物生滅出入きまらざるなり天地の成るも天地の成るも
是は始極あり天地の成るも天地の成るも天地の成るも

後周書曰明
帝武成元年
四月詔曰開闢
至千七百餘
百七十餘載
是又何以
立名乎不
可知

理又非別為一物耶存乎是氣之中乎是氣別之理亦
無掛搭處陳北溪曰大抵只是總天地萬物之理而言不
可離天地萬物之外而別為一物終就離天地萬物而
有箇理便成兩截去了此二說理氣之海也りの氣能
ちるべし能動者もくことあり信又一元の故に九
千六百年に流る日よ二千日有月よ十二月有十二と字
に乘むれば三百六十年なり又三百六十年又三百六十年と
乘むる所二千九百六十年なり是れ元の故なり
附會の事ありては是れも天地の成り
りて減るる所での年故とて事しむと教とま
ぬれど一十から百から千から万から知るは
十二万九千六百二十九万六千から千二百九千六百なる

の故なりはつる唐土の時運りけるありて三皇は
故に天地萬物を漸くして其の成りたるなり
てかりありて天地の盛衰なりとてども万国の水土
りらるるありて人々の運の盛衰なりとてども
くは其の國の成りありて一元變化の故とてども
人々の盛衰と考ふるは皆て十二万九千六百の唐土の國
の運と考へて之を教るは是れなりとて其の万国の
盛衰の成りたる事しむと
問天地の始終の定数ありとて其の成りたる事
万国の成りたる事ありとて其の成りたる事あり
四千六百十七年として子月朔日一夜半冬至五星照珠の
おとくにありたるは是れ天地万物の成りたる事しむと

夏政の道理として其命授けおきて定りしを紀す

い

曰天地の始を紀す其命授けおきて定りしを紀す
紀すは紀すのく水土の時運よりして天異也
又人道國風の改り夏を紀す其命授けおきて定りしを紀す
わつしふ千年二十年又六百年も及ても夏を紀すの
是の命授けおきて其國の始一えといふも亦
これをも是として天地万国の氣運盛衰の時を
非也子月朔旦初半冬至四年百十七年の初は其度と
因ふ所の所として赤道以北の曆元よりして其
万国の盛衰改変の時をいふも亦唐を紀す漢
武帝の初元年此所をいふも亦天地の氣運

四百十七年
子月朔旦
冬至至
會之
卒之
義論

夏政の道理として其命授けおきて定りしを紀す
後盛せしむる唐土日本ハ盛衰の時を
いふも何ぞ世を万国ハ盛衰の時を
今一國の内の時をいふも亦万国の
知しす半より時をいふも亦万国の
盛衰の時をいふも亦万国の
同くは畢竟時を盛衰の時を
盛衰改変の時を定むる理なり
曰天地の氣の始を紀す其命授けおきて定りしを紀す
十五刻これと天地の氣の始を紀す其命授けおきて定りしを紀す
年より夏を紀す其命授けおきて定りしを紀す
運の始を紀す其命授けおきて定りしを紀す

より半分かんばり各をとり物減しより半ありんや
天地の形は二圓をとり一氣はちるを好天地の形は二
論ぞん

右の氣運盛衰の義を辨む

水土解辨 葬法之辨

庚午の秋誰人の作也河より水土解と名はるし書
以ん河に神儒傳のむる處はあり其水土
りよの乾喪祭の法時所位は意むるの辨論其
道のるむむ的やして多年のゆへにこれを解り
實に俊傑の才はありんは新け道といひて
と半ありてい 最きありたりありてはれは
ごこれに愚昧しとおとくは是れ通徹し能ひ
るれるやあさつとやしは長河の津ははつて異國
の物結とありてはる間も其ありて世書り
考つては又かし不審しき半ありてあるといふも
ろくしたく記しる學者の教をまゐるものなり

本書曰中國乃葬祭の法因法の盛なりしと後世より及て遷延せしむる佛法は後つとて葬祭の易簡なるはよりつる諸人のつとてかく佛法を以て佛法を以て盛んせしむる也

本書曰漢朝のころもや軌運せしむる一万人の卒徒儒法と遷延せしむる也つとて後代の明^{ミョウ}朝清^{セイ}朝よりつるはつとて軌運せしむる易簡なる佛法の火葬の法こそ用へき半なりしと毎年長行せしむる唐人の千人のころ長行せしむる病死者も多し其の中に佛者ありしつとて佛一人も火葬せしむるは足りて棺の厚薄に葬具の美悪の差あり其人の貪りて志とせしむるも火葬せしむる也

ては後より千万人とも火葬の稀なり半と見せしむるむ出家する火葬多しつとて終も一山開基の祖作とばなれしとて土葬より日本もも黄^{ワウ}孫^{ソン}隠^{イン}元^{ゲン}といひ土葬より中華世俗の抗^{コウ}し先世乃死^シ骸^{カク}全^{ケン}うらざればその子孫^{コソク}葬^{サウ}祭^{サイ}も半なりとては故も因^{イン}ふり葬師とて土葬せしむる末弟の終るも人半と欲せり出家せしむるは多しつとて中華世俗とやちりたるも長行して唐人と日本人と葬祭の法も日本人のころは中華聖人の葬法に非ざるは故もかこるはごころつとて佛法は火葬の易簡なり中華行どもつとて是は法用せしむる唐人の儒葬の家^ケの者^{モノ}は是れごころつとて終るは貪^{コン}賊^{サイ}の葬^{サウ}祭^{サイ}なり

大葬より易角なり大葬の境の方ありはるる西戎
大葬の外より又水葬ありはるる簡以てはるる
親の死歎てして水唐り沉て是より易簡
か其國のこれとたるより志のひきとて是自
然に中華の人情の志を以てしるるなり祭
祀より日本よりは族宿ゆへに儒教よりは人
なる事なり中華よりは春秋の祭祀よりは
その多しとてなり祀の非とあるよりは長柄とては
年よりたるとなり鬼魂ある事は長柄居居の唐俗と
しるる事なりとて中華あり中華よりは長柄とては
のより佛法より多しなり其法よりは唐
人も靈胎の外よりは儒教に留るるなりとて一
方象傳

以て謂兼て丁寧より靈氣の依りてはるる
法本以てはるる心なりとて布施とてはるる心
ちりてはるる心なりとて金銀並錢とて一守ふと
なりてはるる心なりとて又ハ施然鬼の代長年忘月忘
の法より大葬の境なくはるる心なりとて一守ふと
く執行ふは貴事なりとて儒教の及ぶるなりと
て佛の位より同日とて一七日とてはるる心なりと
の法を濃辨なり是は佛法の法なりとて易簡と
はるる心なりとて儒教の及ぶるなりとて一守ふと
はるる心なりとて唐人の及ぶるなりとて一守ふと
簡なり佛法の及ぶるなりとて一守ふと
よりはるる心なりとて今人の及ぶるなりとて一守ふと

言れど日本の吊念ハ佛法のありたるを以て是れは
どるも佛法と易簡とて之を以てはあつては智國
といへども愚昧ハ多きものなり未だの流し傳ふ
處あるべからず喪と葬とハ死者魂魄のあつては
不吊念ハ灵魂の爲すて未だ冥福の定まるべからず
又つるゆへ父母兄弟妻を以ては喪といはしむ處唐土
七日奉もつらりや次ハ喪のする今清朝の俗もも
儒法と用ゆ長崎より其の唐人の肉より白紙衣服ハ
白紙冠帽と履の悉く皆喪の人を以て水さやうの
下敷の者もかくはせしむるが如く其の内心の
情と儒のりる不知といへども先喪服と精進といへる
りしを留執するも之何の退屈とてんぞ也朝鮮國

うどは外國なれど儒法中華よりも可き事あり
父母の喪を以ては執ざる者とは法人これを忍びるも
北のこゝ偶々喪の中よりふらど難らるるあれども
其子歿しては俗といへる倫ありざる事と志ありて
は必ず葬祭の法も佛法と大に異なるなりといひ
喪服の事ハ佛法より定むるも定りしる按を以て
ソレども中陰四十九日まで紙まづ大半とて七日の
の作否紙なりとも事七日奉にいつるも其間を精進
深許也佛者ハ五年七年十二年又二十年九年あ
りハ一代精進の者もあり日本にあり唐人の中には
其節なり者多し俗といへる戒律と多ものつら
ものも也五戒ハ根本俗の戒なりハソレなり也

家ハ二百六十戒仲の按をりは改め唐より傳へたる方
かしくも戒律と譯しめざるはなからし俗も五年十年
指進するやどの者ハ五戒と傳へりいむりや及ぶれば
法ハつひに作法とたつくのぶとむりくさ事也とい
んや又母妻をばらむはむりやのぶとむりの中事
の法ハ日本のやとむり易簡とていふやあはるやいふ
はとむりくさるやあはるは死に喪するの法とあはる
はとむりくさるやあはるは易簡とていふや一佛法は
たむりくさるやあはるは易簡とていふや一佛法は
却て易簡とていふや一佛法はとていふや一佛法は
華もつらう易簡とていふや一佛法はとていふや一
らむりくさるやあはるは易簡とていふや一佛法は

本書白日本ハ上國とて小國なり今河の冬事いし
百倍より今の河よりして傷葬のむとあまひく執
約つて葬るやあはるは杖木の用百年は杖ぐり
京大坂より法も改めたるやあはるは葬るやあはる
かしく今の河よりして大葬の法日本の水より
り又土葬の法も改めたるやあはるは葬るやあはる
不審曰儒葬ハ日本にあまひく用ん事ハ改めして
足はむりくさるやあはるは葬るやあはるは葬る
るのゆへに今日日本よりして用るやあはるは葬る
伊の法もあはるは葬るやあはるは葬るやあはる
の法も杖の木の法も改めたるやあはるは葬るやあ
はるは葬るやあはるは葬るやあはるは葬るやあはる

此れぞ大葬の儀なり。又葬の費ありつゝのり山女の
貧民といふも大葬ありしとて死人と云ふのまじき入
て焼くべきはいまはさばど先土葬のおとく推入して
焼くれば棺の外に又葬の費あり九割をばい葬
下直ぐりといふも一人の大葬凡十浪目又凡十浪目の
葬と用畿内は戸をば葬の價ありたるれば一倍
ありし二倍の費ありん山家の氏田地多しぬ不
どは毎日山祓り入る葬と云ふ是とありて合さる
其日くといふものいふに多し一日は業とかくと
に別其日の合さるるの葬ともありて大葬の用と
せば毎日の合さるるべし山祓りといふも一人の
大葬凡一丈三日の御さるるべし代集りといふ

は故り貧家は又大葬と用事なり。畿内とて御坊
く債取やりて焼くれば葬もおく入るべしといふも甚
為びざら事ども多しといふり人の者ばも身を
焼くらむ時いざらむもの者をむこれぞ為びざら事
者といふたをばといふも貧賤して葬と費といふ
といふもいづれはあつていづれは浪ともおぼるものハ土
葬の易簡なりて用べきはなり。又大葬ハ一日の
踏込費して焼くをり農民かど耕作所なるべ
一日といふも踏込りさびく疎家の助なりて
風の時はあつてはいつく人の方大方なりといふる
はるをいふ簡なりて日本捕り土葬はむむめを
いふべきなり也。本ハ杉松檜木の外せんむ松や檜の

佛法の大歛ダイケン小歛コケンの法なりとありども白きもの紙用か
るに似たり或人曰今の俗儀は奈宮乃の白き
りの紙とて上着ウキキと其うしつは任國同行と書
はくは白紙ハ別淨衣ちもやをどの紙とて日本に
より社系に考へらる物とて死者も是と考へあはる
とせう然と佛位流布よりこのる経文とく然とく
考へらゆん經帷子と名付より又白布の袋とくび
くけとて是神國のぬと袋なり日本のはりくキビ
くちする人袋は五文の紙と切米と師とく道徳
而くの道徳神よも向く神の平米と考へら
あしつう是紙ぬと袋とてつて掃ぐらする人紙
はゆらつとものなりとつたり又掃三つ葉袋とて

大なる袋あり紙又ハ米をこ紙入く掃するなりむ
よりゆるしとてこり死人の棺中も米と紙と
入るもけ紙実と足えこり紙は紙と紙と紙と
用ひつとて世傳ハ六道紙と考へら王宮の葬法
ハはこれなき事とつたり六道と司の事ハ六の紙
乃紙る紙も佛葬も紙念とて死の口中ハ紙
と米と紙入るる者そと紙より又棺の内を紙に
掃と入るるなり判發の力ハ掃ハ司の具る紙も
卒期上古は遺風なり今もつてあつてむる
むらあはけつとて是紙用とてこり又女
はけ糸紙ハ男ハ紙指口とてぬも留入るるは紙
ゆに入て葬こりしとてこり又紙袋紙とて

かきり多く遊ばふ成りしめあはる佛法はうつ
りくる昔國上代の遠凡こあつてつて
がしてあらぐらを佛法なりしものひてうつ
百日本貨幣の凡とあふ人もありきと権内
し床板と入る身具よすは華と化てれり
多ぶひらそ中た信たの凡信よあつて天竺國
の凡信らるるまじ又位牌の事天竺人よ身
ねりりし天竺の判法よあつて中華の
那らそそてもか一保華も又位牌とつあはる
今日かの位牌の形は異なるるる日本の位牌の
形は管教又の保吉良のころと別ころ物也
形たそそ靈形也しきするものからしむる

靈聖ハ心白木ハ用らるるん今位牌ハ紙
ハ彩色とらるる金銀と彫りて候奈易簡なる
象ハあつても儒の形も今の事と異な
り位牌も又正理よるよづらとありあは
何ともししやうも念じる也并候とある
つる日本の形よるるあつてあはる人ハ
をうし損益として用たりあるは遠く書
るる國家の費をみるるる一とありき
ししし水よ年一わらしとらひて却てお
と易竹間の名也し可也としてをゆりも
人よあつて後身よらるる又おあつても
つしとしてあつてあつてあつてあつて

此より易しとせんともいふるがごとく一筆書のみ
もつとも雲泥のわらうわらうと云ふもつらうの
こころよりいふてあふ消のわらうり成生せん半
のうらむとこあつとぞ柳揚の羽とぞう半
うくんば可ううん
右志存法の流と辨す

文政五年 乙未月十日

水鏡辨

水鏡辨并 水鏡辨と云ふ也 水鏡併別也
かば考案及合徳と云ふ 中村志及

